本の紹介

小林芳正・境野健兒・中島紀一　著
「有機農業と地域づくり ー会津・熱塩加納の挑戦ー」
筑波書房　2017年　菊判　168頁　1800円

「まえがき」で境野さん（福島大名誉教授）は、この書の主題を次の通り述べている。

「小林芳正は、会津盆地の北端に位置する山林が多い熱塩加納村（現喜多方市）で、命の礎である土に足をしっかりとつけ、農業協同組合の営農指導員として、また農の営みの実践家であり哲学者として、地域の持つ価値を掘り起こしつつ、人々とその価値を共有することを大切にしてきた。小林は今年で83歳を迎えるが、百姓という言葉に長くこだわり続け、決して偉ぶることなく、地域の自然、農、文化を愛し、自己の力を育む歩みをいまなお刻んでいる精神性の高い人である」。

第1章は、小林へのインタビューで、有機農業と地域内自給の学校給食を豊富な実践をもとに明らかにする。

第2章は、「いのち」を考えた農業とその「村ぐるみの実践」が語られる。第3章は、中島紀一さん（茨城大学名誉教授）が、熱塩の「さゆり米」栽培を軸に冷害に強い稲作・有機農業など中山間地の農業問題を解明する。第2節は、境野さんが、小林による熱塩の地域ぐるみの取り組みを、子育ての問題として提起する。第3節は、栄養教諭だった坂内幸子さんと境野さんの対談で、学校給食を地産地消や安全安心の食育の問題として明らかにする。第4節は、境野さんが、熱塩の20年にわたる地場産学校給食の実践を総括する。

喜多方市は、2007年に「特区」を得て全国初の小学校「農業科」を導入し、3校から実施して、3年後には15校まで増やした。小林芳正さんは、熱塩小学校の農業科支援員となり、温かく豊かな指導力を発揮された。

2010年、第40回全国農業教育研究会を福島・熱塩加納で開催できたのも小林さんに負うところが大である。小林さんには研究会記念講演をしていただき、参加者は大変な感銘を得、農がはたす人間形成の役割を再確認できた。

この書は「農の営みの参加」が、どのように人間の育ちにかかわっているかを、実践で明らかにしている。「有機農業づくりと地域づくり」は、実はそこに住む子どもづくりでもある。是非一読をおすすめしたい。

（全国農業教育研究会事務局長　内山雄平）